

## 第1回 県立横須賀高等学校 学校運営協議会 全体会記録

### 1 校長挨拶

・柏陽高校から着任しました。以前本校には教諭、総括教諭、そして教頭として勤務していた。教頭としては1年だったが、SSHスタートの年で大変であった。

・近況について

全日制：来週の土曜日に体育祭が行われる。現在ダンスの練習とか、デコの制作とか一生懸命に取り組んでいる。熱中症やけがに注意して盛り上がってほしい。部活動では、陸上部の生徒が800mで県で優勝し、関東大会に出場する。うまくいけばインターハイもいけるのでは。

定時制：現在在籍49名。非常に雰囲気がいい。穏やかな感じで授業が行われている。出席率もいい。中学校の時不登校、学び直しで来ている生徒、外国につながる生徒、多岐にわたっている。それぞれいろいろな支援が必要となっている。

委員の皆様からは、様々な視点でご意見をいただきたい。その意見をもって改善していく。また、この協議会が教育委員会に意見が言える場でもあることも踏まえ、進めていきたい。

### 2 学校運営協議会委員紹介（原副校長）

欠席：河野和代委員（横須賀市立公郷中学校校長） 大竹英恵委員（朋友会会長）

西垣健太郎委員（全日制PTA会長）

### 3 学校職員紹介

### 4 会長・副会長選出

校長：会長は昨年度に引き続き大竹委員にお願いしている。副会長は私（校長）が務める。

### 5 会長挨拶（大竹会長欠席のため割愛）

### 6 令和7年度 学校運営の基本方針について（校長より）

・学校運営組織について（配付資料参照）

全日制：今年度、教務グループリーダーが輪湖総括教諭に、進路グループリーダーが三戸総括教諭に代わった。

定時制：総括教諭は2名配置だが、今年度は1名欠員となった。ガイダンスグループはグループリーダー不在だが、各セクションにリーダーを置いて対応している。

・学校目標について

各グループリーダー、総括教諭から説明をする。

### 7 本校の教育活動 グループの取組について

#### (1) 定時制 小川総括

・カリキュラムグループ

ICTの活用 電子黒板の活用 母国語が日本語でない生徒が言語の壁に阻まれて授業で退屈な思いをしないよう授業担当は対応をしている。経済的な問題もあり端末の義務付けはしていな

いため、スマートフォンを活用して教材を受け取れるようにしている。

・ガイダンスグループ

SC、SSWと連携しながら諸問題に対して解決できるよう、情報共有等進めている。生徒の社会性が高められるよう、卒業までの間で自然なコミュニケーションや声掛けに対応する力を育てていけたらと考えている。

(2) 全日制

・学問探究グループ 池上総括

SSH 担当 現在2期目の最終年度 3期に向けた取組を進めている。

教科学習と課題探究の相乗効果をより一層高めることを目標としている。そのために STEAM 教育などを活用しながら相乗効果を高めていきたい。

地域との協働・探究活動を地域と連携しながら進めていきたい。

SSH 活動をHP等を通じて普及していく。今までも取り組んでいたが、さらに充実を図っていく。

・進路グループ 三戸総括

生徒一人ひとりが高い志を持ちその実現に向けて主体的に歩む力を育むことを基本理念としている。単に大学に進学させるのではなく、生徒が自ら将来を描いて、そこに向かって努力し続ける姿勢を見つけることをもっとも大切にして指導している。入学当初よりも高い進学意識と高い進路希望を抱き、それを維持するということを、生徒の方には言っている。それが維持できるような取組を教員の側がしようということで、高い指導力を維持し、それから授業研究など授業改革を進めていくという形を整えていきたい。キャリア教育として、1年生では働いている先輩に来ていただく未来ナビの実施、2年生では研究活動に打ち込んでいる学生に来てもらって具体的な将来像を描かせる取組を行っている。2年生では12月頃に“第一希望宣言”として自分の目標を具体化、言語化、より具体的な目標に落とし込んでやっていこうということを目指している。教員の指導力向上として、難関大学のチャレンジを増やしていきたい、合格実績をあげていきたいということを目指している。その指導力が必須になるであろうということで、難関大学の入試問題の研究を、各教科でやっていきたいと考えている。夏期講習にも難関大学の入試問題の勉強をする講座を設け、教員にとっても研究の機会として、また生徒たちも様々な講座の中から自分に合ったものを選んで夏を有効に、戦略的に使っていくことになるのではないかと考えている。本校の特色として3年生で1クラスだけ特別クラスを設置している。難関国公立・難関私立大学を目指した1つの集団を作っており、そちらでは、高度な学習内容、互いに切磋琢磨する環境を強調して、非常に高い目標を掲げている。そちらは、東京大学、京都大学等へのチャレンジを続けている。この春は残念ながら力が及ばなかったが、学年全体として難関国公立大学10大学に去年と今年の卒業生24名中6名が合格した。準難関国公立といわれるところには38名挑戦し、14名の合格を勝ち取っている。今後の課題として、本校の目標である自学自習をさらに進めていくためにスタディサプリを学校を通して申し込めるよう整備した。自分が苦手とすること、先取り学習なども、自分のペースでできるよう進めている。また自習室の整備を進めている。難関大学の受験を支えるために教員でのノウハウのシェアが大事ではないかということで、どんなことをやっているのかといったことを同じ教科の教員とシェアするような取組を進めたいと思っている。生徒の可能性を最大限に引き出す、高い努力を持たせることをとおして、地域で信頼に応える進路実績を向上させていきたいと思っておりますの

で、皆さんにご理解をいただいで、指導していく。

・広報図書グループ 野口教諭（サブリーダー）

今年度の目標は3つ。1つ目はホームページの充実、2つ目は広報活動にかかわる生徒の活動で情報を発信すること、3つ目は教職員のワークライフバランスを充実させること、としている。1点目の学校ホームページの充実では、今年度の取組として、部活動の紹介ページのフォーマットを利用して各部活動顧問等に作成のお願いをしている。また、SSH事業の紹介も、写真や情報を常に更新して、外部の方に発信できればと思っている。2つ目が広報活動に関わる生徒の部分だが、3年前に発足をさせた広報タスクフォースの生徒が全公立展等でも、生徒を中心とした広報活動を行っているので、持続的に行っていければと考えている。3つ目の教職員のワークライフバランスを充実させる点では、3年前から導入した Teams を活用して、情報の共有や資料の紙を印刷しないで、データ上で共有できるスピードであったり、家でも情報を見られるのでワークライフバランスの充実ができると考えている。以上です。

（教頭）広報タスクフォースは、秋の10月11月12月の学校説明会等でも前面に立って説明していく。さらには、そこで流される動画に関しても、タスクフォースの生徒たちが、自ら作成している。8月の公私合同説明・相談会でも活躍している。

・生徒支援グループ 山田総括

今年度の目標は大きく2つあげている。1つ目は、学校行事体育祭が6月実施に初めてなり、今からまさに準備が熱を帯びてくるころかなと思っている。10月に文化発表会“県横祭”という名前で予定している。いずれの行事についても、生徒主体というのをグループとしてうたっている。どこまで、教員が支援して、どこから生徒の主体性を伸ばすか、毎年悩ましいところだが、今年も上手に支援できたらいいなと思っている。2つ目の柱は教育相談関係で、どうしても、各学年に数名ずつ、学校に来られない、教室に入れない生徒がいたり、これから出てきたりするもので、その生徒たちに適切な支援を、また外部と繋いだりできるように。各学年の教育相談コーディネーターや、養護教諭、SCやSSWの先生方と情報共有を迅速に的確に行って、支援していきたいと考えている。

・総務グループ 片桐総括

地域等との協働、そして学校管理の運営というところに取り組んでいる。地域との協働においては、生徒、保護者、近隣住民地域との協働というものは何かできないかと模索としているが、なかなかそれが実現していかないと感じているところである。今年こそ何かできればと考えている。その中で、ボランティアバンクというものが、コロナ禍明けからなんとか、軌道に乗ってきたのではないかとと思われる。過去朋友会を核とした団体だったが、そこにPTA また保護者も絡めて、花壇の整備、ベンチの整備とか、昨年度行ってきた。今年も何かそういうことができればと予定をしている。昨年度委員の岩本様より、公園でお祭りが行われるということで、そこに生徒会等が参加できればと考えている。地域の防災訓練についても非常になかなか厳しいというようなことも伺っていたので、今年はそういったところに横須賀高校の生徒が出店まではいかないかもしれないが、何か補助的なものができて、地域の中での役割というまではいかないが、関わりが持てればと考えてはいる。学校管理、学校運営では、教育環境の整備というものを進めていきたいと思っている。校舎は老朽

化していく中で、生徒たちが学校を本当に愛するという愛校心という言葉をあげたが、そういった気持ちで、学校をきれいにしよう、学校を大事にしようというような取組ができればと考えている。環境委員を主体とした動きができればと考えている。

#### ・教務グループ 輪湖総括

4年間の目標として、知の循環、主体的、対話的で深い学び、を立てている。今年度の具体的な方策として、実験、観察、ディベートなどの学習活動、他教科や専門家、企業などの多角的な視野からの評価やフィードバックを行うことで、多方面からアプローチし、深い学びにつなげ、それを4年間の目標の2つに近づけていけたらと考えている。また、SSH事業とのかかわりも深い部分があるので、そちらとも連携し、目標達成に向けて活動していきたいと考えている。目標ではないが、来年度はSSHの第3期申請に伴いカリキュラムが変わる。来年度の入学生からカリキュラムが変わる関係で、今現在その編成作業を行っている。軸としては、SSHのより一層の発展と、生徒の進路実現に向けたカリキュラムの編成を念頭に進めている。

## 8 意見聴取

#### ・鈴木委員

SSH10年目ということで、最初のころに比べると充実した活動になって、ぜひ3期を目指して頑張っていたきたいと思います。また3期に向けてカリキュラムを検討しているということ、これはまた別のところでお話を聞けるかと思っています。今年は体育祭がメインで来年は文化祭がメインということなんですね。私自身、大学の教員で、入ってきた学生が将来何になるのかということだが、横浜国立大学教育学部の学生が教員にならない、全国最下位となっている。何が問題かということ、入学するまでに、本当に教員になるのか、将来のことについてあまり考えずに、多分先生方が学校で授業をされているのを見て、漠然と先生になりたい、と入ってきているのかと思っています。教員にならない学生に聞いてみるとその理由として、大学に入って視野が広がった、教育以外のことに興味がある、他の学部の学生、先輩方から部活の先輩方、学校以外の先輩方から話を聞いて、他のことに興味を持つようになったと話しています。未来ナビ、高校の先輩方に来ていただいて話を聞く機会があるということなので是非そこを活用していただいて、自身の興味のある職業に関わる学部の方に入学するように勧めていただくと、生徒さんにとっても大学生活がより有意義なのかなというふうに思いますし、勧めていっていただきたいと思っています。学校のホームページの担当の先生から更新頻度を上げるとお聞きしましたので、是非後で拝見させていただきます。大学のホームページは教員が作っているのであまり面白くないんですよ。参考にさせていただこうかなと思っています。

#### ・野沢校長

話が進めばではあるが、教職大学院の学生の実習も検討していただきたい。地域的な事情があるのも分かっていますので、もしチャンスがあれば、2年間なので大学の实習に比べるとはるかに濃い。そういう中で、子どもたちとの接点の中で、教職を目指す学生が増えるとか、そういう効果あるのではないかと考えています。

#### ・鈴木委員

地域とか、学生の出身地にもよるが、学生の希望者がいたら、是非お願いしたいと思っている。教員にならない学生は多いが、ただダメとかそういうのではなく、逆にコミュニケーション力は元々良い生徒、先生になりたいと思っている生徒が入ってきてくるので、企業にいても全然通用してし

まう。逆に企業からの評判が良くて面接の受けもよく企業に就職してしまう。一人ひとりで全然問題がないが、ただ文科省から教員就職率を言われてしまうところだけの問題になるので、そこは皆さんが言っていることには、間違いがないところである。ただやはり、大学の4年間をより充実したものとするには、(学部学科が) 将来就職するところに近いほうがいいかなと思う。

・丸瀬委員

前回、進学実績をあげて、進学重点校を目指していただきたいとお話ししたが、なかなかいろいろなことがあって大変だなと思っている。SSHがあって、STEAMがあって、主体的で対話的な学び、ということだと子どもたちの時間を確保することも大変であろう。かと言って難関大学への(受験の準備の) 時間も使わなければいけないだろうし、また先生方の準備も大変なんだろうと思う。最初のポスターセッションを見に行ったが、本当に準備が大変で、いろいろなところと先生方がつなげていくという認識の中で発展してきたと思う。せっかくやっているものなのだから。もっと発信して認知度を上げていただけるといいかなと思う。毎回、広報活動、周知活動が大変で大切だと言っている。伺いたいのは、県の規定で、ホームページからSNSへの関係を図っていいかということ。

・柴田教頭

事前にSNSのサイト等を登録しておけばリンクは可能。審査に手間がかかる。ハードルは高いかと思われる。

・丸瀬委員

私学だとホームページとSNSがリンクしていたりとか、自分がやっているバスケットボール協会にもインスタグラムのリンクを貼って、そこから飛べるようになっている。より発信力を高めようというのはいろいろあると思う。ホームページだと見に来てもらわないといけないが、こちら側から発信できていけるものがあれば、もっともっと横須賀高校のいいところが知ってもらえるのかなと思う。ぜひ今年目標が達成されて、よりよくなっていただければと思う。

・岩本委員

町内会と高校っていうのは、小学校中学校は父兄の方が地元の方なので、我々の子供さんの親も言うならば、仲間なんですよね。ところが高校の親御さんは、あの地元じゃ少ないっていうことで、なかなか。地元とあるいは町内会との接点がなかなか少ない。(目標を見ると) 防災訓練に参加しよう、そういう気持ちで書いてあると思うんですけど、私が毎年言っているのは、学校としては、生徒さんをあのもし地震があった場合は、なるべく親御さんのそばに返してやりたいと。ここで活躍するよりですね。だから我々としては、是非地元で1日でも早くあるいは1時間でも早く、子供さんを地元に戻してもらって、地元でやる訓練に是非参加して欲しいっていうのが、我々の望みです。我々もこの町内会は約1,400所帯、横須賀でも一番大きい。そのうちの約700人弱が、もう75歳以上の年寄りなんです。そうすると、本当はこの生徒みみたいな高校生で、いろんな面で助けていただく、力仕事も含めてですね。ところが今なかなか私が言った通り、それは地元の方でやって欲しいっていう気持ちがあるので、どうしても、中学生、あるいは若いお父さん、お母さんに頼らざるを得ないということなので、あまり生徒さんにね、この地域の訓練に出るというわけではなく、地元の町内会の訓練に何らかの形で協力していただきたい。防災倉庫はグラウンドにあったんですけど、なくなったと市から聞いている。(災害時用水の) 100tタンクというのがあるが、鍵を(町内会で) 持っていない。市の方に聞いても、鍵は下水局、上下水道局にしかないということなので、もし(災害が) 起きたと

しても、すぐ水をもらえない。水道の担当者が来ないと鍵がないので。我々は訓練ではいつもこの場所を借りて、100tタンクを自分でも開けられてセットができるような訓練を行っているが、今年の訓練の時はそういうのを（できるようにして）もらおうかなと今考えて申し込みはしている。物置（防災倉庫）が無くなったおかげで。我々ご飯も炊いてるんですね、大きい窯で。それも全部なくなっちゃったので、これから防災訓練どうしようか。どこまで出来るかっていうとちょっと心配であります。今言ったこと（災害時には早く生徒を親元、地域に帰す）を守っていただければ、地元も各地元も助かるし、我々も逆にここにいる高校生、あるいは大学生が戻ってきて、手伝ってもらうのが我々が一番助かる。

それともう1つはやっぱり清掃ですね。清掃は、ちょっと前までは定時制の人がやっていて、我々町内会と一緒にやった。今どっちかという、平作川を、去年も11月やっていただいたと聞いている。我々のセクションと違うので、（生徒が清掃活動に）出たっていうのは聞いているが、どこに何人ぐらい出たのか、多分10人ぐらいではないかと思うが、そういうのは、地元で続けていただきたいなと思っています。

・小川総括

地域清掃は2回企画していたが、1回は雨で実施することができなかった。

・岩本委員

コロナでやめた時期がありました。その前までは、町内会と一緒に夜やっていた。コロナで辞めちゃったので、未だに（共同としては）開始してないっていう。学校だけでやっているというの、ちょっと聞いてはいます。

・山田総括

（全日制は）11月に地域貢献活動として清掃活動を1年生がおこなった。

・岩本委員

実施予定や実施したことなど連絡くれれば、町内に（横須賀高校の活動として）発信できるので、今後予定があれば連絡をください。町内にも発表したほうが、町内の人も喜ぶ。

・野沢校長

防災倉庫は7月4日に撤去予定であるが、新しい倉庫が、秋のいつになるかは決まっていないが設置される。

進学実績について、自分がいたころの10年前とは違うと感じている。職員も危機感を持っている。いきなりは難しいかもしれないが、確実に一つ一つできることを進めていく。結果を見ていただきたい。